

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立南郷中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

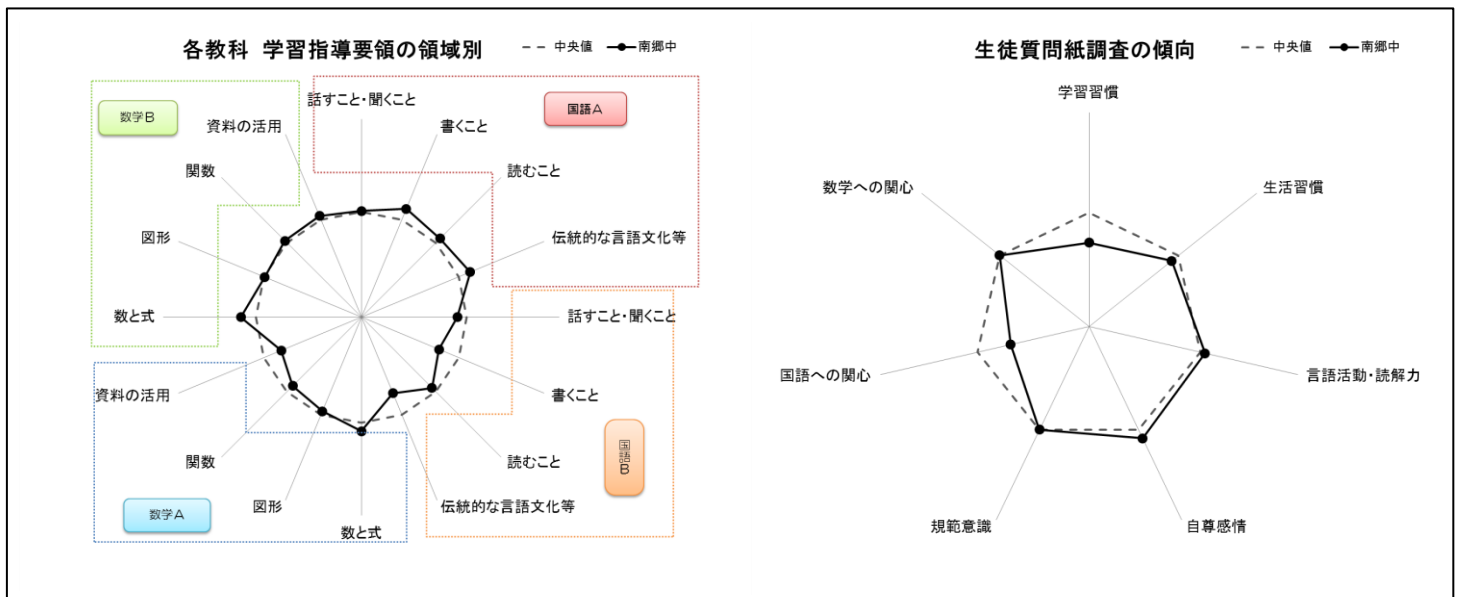
国語では、国語Aでの「書くこと」や「伝統的な言語文化等」に関する設問での正答率が高かった反面、これら2領域の国語Bでの回答状況に課題がみられました。数学では、数学A・Bとも「数と式」に関する設問で高い正答率でしたが、数学Aでの「資料の活用」に課題がみられました。国語、数学とも「記述式」の設問に対しての正答率が低く、「書く力」「じっくりと考える力」をつけていくことが課題としてみえてきました。

《強み・弱み》

質問紙調査において、「自分には、よいところがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」など「自尊感情」についての設問に肯定的な回答をする生徒が多く、意欲的で前向きに取り組もうとする傾向がみられます（強み）。その一方で、国語への関心が低いこと、家庭学習や読書の時間が十分でないことなどが、昨年度に引き続き課題となっています（弱み）。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

本校では、「確かな学力」を育むために、授業での学習の「めあて」の提示と「振り返り」の実施や、生徒が主体的に課題解決に取り組む「学び合い」を取り入れた授業改善に努めています。従前の取り組みに本調査の結果を踏まえ、教科としての学びを確認するとともに「書く力」の育成を目指して、各教科で「振り返り」を文章で書く取り組みを始めました。「学び合い」においても、生徒がじっくりと考えることができる課題の設定について、より工夫しています。

また、家庭での学習習慣についても課題が見られることから、今年度も「家庭学習の手引き」を家庭での予習・復習の習慣化を目指した内容に改訂して、生徒及び保護者に啓発・周知していきます。あわせて、学校・学級図書の実態を回り、読書の習慣化を目指した取り組みを進めます。